

花みずき



第21期 第3号
発行者代表 粉山昭恵
編集者 金田貴子

総主題 虹の架け橋を見上げて一平和・寛容・多様性

主題聖句 あなたがたは、それぞれ賜物を授かっているのですから、
神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を用いて
互いに仕えなさい。
(ペテロ1 4:10)

『主のまなざしを生きる』

西川晶子(日本福音ルーテル厚狭・宇部・下関教会)



ここ数年、駅のトイレや温泉の脱衣所などで、周囲から視線を向けられることが増えてきたように感じています。おそらくですが、私の体格が女性にしては大きすぎるため「LGBTQ+ (特にトランスジェンダー女性)ではないのか」と思われているのだと思います。正直なところ、あまりいい気持ちはしません。いつか「あなたは体格的に女性かどうか疑わしいので、女湯に入らないでください」と言われてしまうのではないかと不安を感じています。そして、私でさえこうなのですから、LGBTQ+当事者の方は、日々の生活の中でどれほどの恐れを感じながら生きておられるのだろうかかと心配になります。性的マイノリティの方々の存在が可視化されてきたために、女性としての「規格」(平均)から大きく外れた私にも矛先

が向いてきた、というもあるのでしょう。しかしだからといって以前のように、性的マイノリティの方々が社会の隅っこで窮屈なままでいてくれたらよかったなどとは、私は決して思いません。トイレや銭湯の利用についての議論があることは知っていますし、性加害や当事者への嫌がらせ目的でLGBTQ+を装おうとする人が出てくることへの不安を持つ方もおられると聞いています。しかし実際には、当事者の方の多くはわざわざ高い料金を払って家族風呂を利用されたり、多目的トイレがないからとトイレを我慢されたり、様々なところで、マジョリティであれば払う必要のないコストを払って、制限の中で生活されています。にもかかわらず少数の悪意の人(おそらくそのほとんどは当事者ではない)のために偏見の目にさらされてしまうのであれば、むしろその場合、LGBTQ+の方々も被害者です。そしてこれは、最近の排外主義、外国籍の方々への差別などとも、根っこをまったく同じくしているものではないかと思っています。「イエスがその家で食事をしておられたときのことである。徴税人や罪人も大勢やって来て、イエスや弟子たちと同席していた」(マタイ9:10)。徴税人や罪人…イエスさまは、当時の社会の中で「救いの規格から外れている」とみなされていた人たちのところに行き、友となられました。イエス様は今、私たちのこの社会のことを、その中で不安な思いを抱えて生きておられるマイノリティの方々のことを、どのようなまなざしでご覧になっているのでしょうか。そのイエスさまと一緒に、共に生きることを求め続ける教会であることができたらと願っています。

プロフィール： JELC 大江教会(熊本県)出身。身長178センチ。牧師三年目のときに引き取った子猫はすっかり老猫(現在三匹)に。趣味は読書、ドライブ、スポーツ観戦、天体観測、最近少しさぼりがちなジョギングと筋トレ。

花みずきの集いに参加して

リラ・プレカリア～祈りの豎琴～



今回、この修養会に参加致しました理由として私自身、楽器が好きで、様々な楽器に興味があるというのが1つの理由でした。しかし、ハープの音色を生で聴いたことが全くなく、初めての経験でした。漠然と神様がいらっしゃる雲の上で天使達が演奏しているイメージでした。実際にキャロル先生のこれまでの活動をお聞きした上で演奏を聴くと、想像以上に美しい音色でしたがそれと同時にその漠然としたイメージ通りの情景が浮かぶような不思議な感覚に包まれました。驚く暇もなく虜になってしまいました。先生の体験談に出てくる方が、先生の音楽を聴いて「人生まだ捨てたものではない」という言葉を仰ったそうです。私は音楽死生学という分野や「祈りのたて琴」という音楽を祈りとして神様に捧げる世界を知って、私自身も意味は違えどまだまだ高校生であるため知らないことばかりでまだまだ生き続けたい、もっと知りたいと強く思いました。またこのような機会があれば必ず参加したいと思います。ありがとうございます。

(猿渡 遙)

西条教会からは3名で参加させて頂

きました。キャロル・サック先生の講演は、終末

期を支え、安らぎを与えてくれるハープ演奏を通してのお働きでした。ハープ演奏と数件の事例を聞くうちに、自分がその場にいるような気持になりました。

できる事ならこの八月に亡くなった母にも聞かせてあげたかったです。4日後

に西条教会の女性会で当日の様子を分かち合いました。各自感じたことを雑談のように話し、録画したハープ演奏を見て聴いてもらいました。音質は生とは全然違いますが、皆さんそれぞれに「様子がよく分かった」「このような働きを知らなかった」と言っていたき、参加して伝えることができ良かったと思います。神様の働きを、キャロル・サック先生の証しを通して身近に感じ感動の集いでした。また、知る機会を与えてくださった女性会執行部の皆さまに感謝しますハレルヤ !!

田丸浩子(西条教会)



2025年9月23日 日本福音ルーテル大阪教会において 第21期西教区女性会 全体修養会 花みずきの集い(祈りと音楽に包まれて)が講師にキャロル・サック先生をお迎えし開催されました。先生はハープを用いてパストラルケアを実践されています。ダビデは、羊の番をしながらハープを弾き何時間も神様と対話していたと書かれているようにハープは聖書の中でも用いられている楽器です。ホスピス等で終末期困難な中にいる弱者に寄り添い祈りを届けるキャロル先生。演奏者ではなく目の前に横たわっている人が主となり、その人の呼吸に導かれながら演奏をされるとの事。リラ・プレカリア:呼吸(スピリット)のケア。職員の方から明るく活発な患者さんとの情報があり睡状態だった方の傍で長調の曲を演奏されたそうです。意識が戻られた時、この世(現世)ではなく新しいステージ(天国)での楽しい音楽が聞こえたとの感想があった等のエピソードも伺いました。一人ひとりの為に演奏と祈りと愛を届けるキャロル先生の柔和で優しい声に癒され豊かな祝福を頂けた一日でした。

青野史子(大阪教会)



花みずきの集いにお招きいただき、大変ありがとうございました。美しい琴の音色と歌とキャロル・サック先生のやさしい語り口にとっても癒されました。「歌は二度祈るようなもの」と言うお言葉は新鮮で音楽が体のケアと魂の癒しをもたらすものであると実感しました。実際に死の間近にいた人が琴を聴くことにより、意識を取り戻したり、心を整理できたりするお話は直接音楽が霊に働きかけているのだと分かりました。

午後のワークを通して自分もまた悲しいことや辛いことがあってもなお顔を上げて神を仰ぎ見ることが出来ることを知りました。いただいた詩編との出会いの冊子を読んで、順境の時だけでなく逆境の中でもなお心を主に向け祈り続けられるようでありたいと思いました。普段の生活の中で霊が窒息気味の私にとってキャロル・サック先生の愛情こもったお話に大変心温まる思いがしました。神に感謝。

上田明子(豊中教会)



先日は全体修養会に参加させていただきありがとうございました。

広範囲に広がる西教区にもかかわらず二府三県より沢山の参加者あり、3年に一度のこの集いを楽しみにされていることが伝わってきました。キャロル・サック先生のリラ・プレカリアに心洗われ、心慰められ『祈りと音楽につつまれて』と案内に書かれていた通りの豊かな時間になりました。そして神さまに胸の内を明かすことの大切さを改めて気づかせていただきました。感謝 !!

21期女性会連盟会長 谷口和恵



第21期花みずきの集い会計

2025年9月23日(火) 於:大阪教会

収入			支出		
項目	決算	摘要	講師謝礼	20,000	キャロル先生
会費(参加費)	55,500	48名@1000 15名@500	講師交通費・ 宿泊費	49,150	キャロル先生他
礼拝献金	70,041		会場費	10,000	大阪教会
感謝献金	3,000	神戸東教会	交通費補助	33,170	西条・広島・徳山
教区活動費 より	112,205		役員交通費	4,500	
その他	0		お弁当・お茶 代	38,885	
			通信費 文書 費	12,000	資料印刷
			教区活動費へ	73,041	
合計	240,746		合計	240,746	

関西地区教会学校 合同お泊まり会（7/26～7/27）&合同遠足（9/15）

主題聖句 私はあると共にいる。（イザヤ書 43 章 5 節）

関西地区教会学校の活動のためにお祈りとお支えありがとうございます。今年は関西 CS キャンプの第 60 回目に当たり、コロナで中断したままのキャンプをぜひ復活させたい！との思いでお泊まり会を企画しました。会場は天王寺教会で、宿泊は小 2 以上ですが小さい子は保護者と一緒に部分参加しました。開会礼拝に来られた保護者全員が、子どもの時に関西 CS キャンプに参加していたことがわかりワクワクした雰囲気で始まりました。まずは教会のどこかに隠されているヒントをたどって夕食の食材集めです。意外に幼稚園児さんが見つ



けるのが早かったです。食材を切ったり多量のお米を洗ったりみんなで準備をしてから、お庭で水鉄砲大会をしました。ずぶ濡れになって遊んだあとに食べたカレーは美味しかったです。夜のお楽しみは、みんなの希望で礼拝堂を使っ



てのかくれんぼときもだめです。そんなに暗くないのに？泣く子がいたほど盛り上がりました。部分参加の子が帰ったあと、泊まり組はお菓子パーティーをして夜は礼拝堂で雑魚寝しました。次の日曜の朝、礼拝が始まるまでに使った場所の掃除です。



食堂と礼拝堂と、自主的に玄関やホールまで！いつもより教会がきれいになりました。教会学校の礼拝でプログラムは終了でしたが、その後も子どもたちは残ってトランプ

をして賑やかに過ごして帰っていきました。また、昨年に引き続き 0 歳児から家族参加できる合同遠足を企画して 9 月にキッズプラザ大阪という体験型の博物館に行きました。京都大阪神戸三地区から参加者が集まり、年令ごとにグループを分けた自由行動なので、課題を出しました。それは「矢木先生をさがせ！」です。館内のどこかにいる天王寺 CS 校長の矢木先生を見つけて、グループ写真を撮って保護者にグループ LINE にのせてもらうのですが、先生は移動するので同じところにいるとは限りません。館内をまわりながら先生を探し当て、カードをもらえばミッション達成！最近反抗気味の小学生も高校生とチームを組んでまわります。去年はお母さんと一緒だった幼稚園児さんは今年は友だちと手をつないで遊びます。グループ行動がちょっと苦手なお友だちもミッションをいっしょに頑張りました！最後に京都教会の沼崎牧師にお話しとお祈りをさせていただきました。ふ



だんおふざけている子も今日はしっかりお祈りします。解散後も残って遊んだ楽しい 1 日でした。楽しいとき、成長するとき、いつも神さまがいっしょにいてくださいます。また来年！大きくなって会えますように。

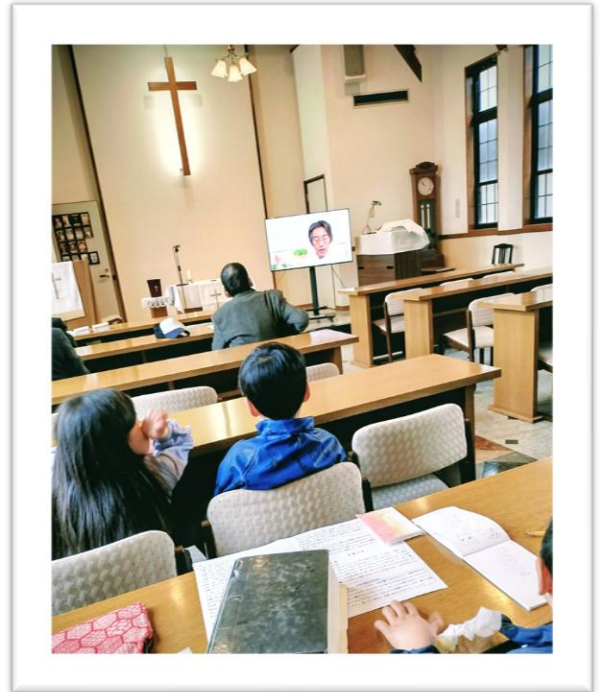


報告 関西地区 CS 協議会代表 簗田ちはる（天王寺）



松江教会 松林三津子

戦後 80 年の今年、創世記2章の主なる神は言われた。「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう」このみ言葉を思い巡らしています。アダムにエバが与えられたときのことですが、そこにとどまらず、人はひとりで生きようにはできていない。他者とのかかわりの中で生きよう生まれている。このことを強く感じています。戦後 80 年、テレビでも被害の立場から加害の立場から、報道者として、軍当事者としての報道が今まで以上に多くあったように思います。加害の立場で帰国後反戦平和を語ってこられた友人がいました。中国での戦争に徴用され、戦後シベリア抑留5年間、その後すぐに帰国は許されず中国の撫順戦犯管理所に戦犯として送られて、6年間を過ごし、起訴免除となって昭和 31 年に舞鶴港に帰着きます。帰国してから彼らは中国帰還者連絡会を結成して、互いの就職のことや悩みを相談する友となりました。中国からの帰国者への差別偏見は今も続きます。しかし、戦後を共に生きていく仲間がいたことは幸いでした。



2011 年東日本大震災のときのこと。私は津波、原発被害の映像をテレビにくぎ付けになって見入っていました。そのころ教会(単立の教会)に行けなくなっていた私ですが、一人ではダメだ、誰かと祈りたい！と近所のルーテル教会へ次の日、すがるような思いで行きました。震災は金曜日で、ルーテル教会は土曜日に礼拝をやっていました。教会には祈る友がいました。一人で信仰生活ができると思っていた私に、こういうことが起ころうとは思ってもよらないことでした。その日の受付のルーテル新聞には明比輝代彦牧師の退官の記事が写真付きで。益田教会の教会学校サムエル会で小、中とお世話になった先生の40数年ぶりのお顔がありました。明比先生のとときに聖書、讃美歌を買い求めました。益田教会は 2023 年5月6日に「おしまいの礼拝」をもって閉じられました。益田教会の先輩、安達悦子さんは晩年地域の高齢者に声をかけハンドベル演奏会、手芸工芸の作品展と、教会を超え献身されました。一人暮らしの私の母も仲間に入れてもらい、出かける日、人と会う日があったことは何よりのことでした。

松江教会の女性会は現在二人ですが、無くさないように誰かのためにあり続けたいと思います。聖書の時間を大切にして、自分の思いを分かち合える友がいることは幸いです。話すことは解き放すことです。



ACWCJ 関西支部1日研修会報告



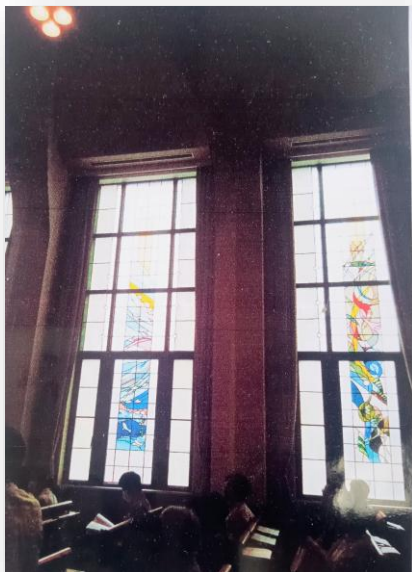
秋の気配が少し感じられる季節のなか 10月3日金曜日、在日大韓基督教会京都教会に於いてアジア教会女性会議日本委員会(ACWCJ)関西支部1日研修会が行われました。

ステンドグラスが美しい大きな教会で司式を務めさせていただくのは心が引き締まる思いでした。そして教派を超えた仲間と共に神様の御前に立つことができるひとときに感謝でございました。

今年の式文は「リーストコインの交わり」の働きに想いを寄せ、リーストコイン国際委員会により作成されました。

「キリストの癒しの平和を世界に届けよう」という主題を受けて大韓基督教会京都教会の李 成俊牧師によるメッセージ、浪速教会の川江 亜希子牧師による講演を聞くことができました。お若い川江牧師のお話はセクシュアリティやジェンダー正義といったとても興味深いお話でした。

世代を超えて、教派を超えて…私は ACWCJ の委員を担わせていただいてから早いもので7年が経とうとしています。多くの出会いに感謝しかありません。また、ルーテル代表として恥じぬよう日々神様と向き合い、精進していきたいと思っております。ご参加くださった皆様に心より感謝申し上げます。そしてこれからの研修会がより良いものになるようご指導いただければ幸いです。なお行われました研修会は後日配信もございますのでそれぞれの女性会で活用くだされば、と思います。



日ごろから ACWCJ の活動に心を寄せ、祈りにおぼえてくださる皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(三宅愛子)



女性会連盟

連盟担当 沼崎素子

早いもので今年もアドベントの季節となりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

連盟会費等納入につきまして、後期も大変お世話になりました。ありがとうございます。

10月15日に発行しました会報171号とひびき57号が、お手元に届いたことと思います。会報は「サバ特集」として、これまでに関わって来られた多くの方々にご寄稿いただき、新旧の写真や資料とともに、その軌跡をまとめました。ゆっくりと目を通していただければ幸いです。長年にわたって支援された全ての皆さまと、その歩みを守り導いてくださった主のお働きに深く感謝いたします。

ひびきは、6月5日～6日に市ヶ谷ルーテルセンターにて行われました役員研修会の内容についてお伝えしました。私からは、

この研修会で2027年の総大会について話し合ったことをご報告いたします。すでにお知らせしておりますように、女性会連盟は2028年に100周年を迎えますので、2027年の総大会は『女性会連盟創立100周年記念大会』として、西教区が会場となり開催されます（総会～日本福音ルーテル大阪教会・大会～ホテル プリムローズ大阪）。そこで、皆さまと共にその喜びを分かち合い、楽しく思い出に残る大会となるためのアイデアについて意見を出し合い、記念品スライドショーや小冊子ステージプログラムの3つが提案されました。についてはクリアファイルやハンカチ、しおりなど。については各教区や連盟の歩みをまとめるもの。については、音楽（楽器演奏や合唱）が出され、この案をさらによく話し合い実行していく担当教区として、東教区九州教区東海教区（司会進行）が決まりました。ちなみに西教区は開催地のため、来春には現地実行委員会を設立し活動を始めることになります。こうして、みんなの力を合わせて記念大会を盛り上げていきたいと願っておりますので、どうか皆さまのお祈りとお支えをよろしくお願いいたします。



編集後記

始めはパソコン操作でドキドキしていたのが今では楽しい花みずきの編集です。皆さんから寄せられた原稿を間違えていないか、ここにはどんな画像を入れようかと考えて作る作業はとっても楽しいです。皆さんに喜んで頂けるように頑張ります。

